

古今物語

イ

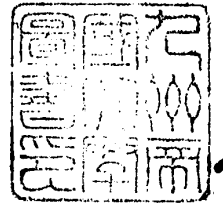
二

02
31
0

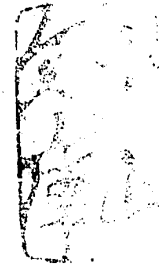
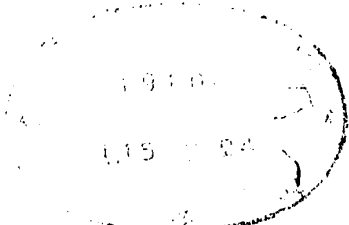




古物初巻之計



揚州イノ大形イノの...
 折々...
 長...
 折...
 揚...
 揚...
 揚...



物なれども... 余の... 神... 首尾... 修... 是... 術... 諸國...

中... 元... 見... 出... 軍... 余... 今... の... 小... 一...

一 本...

智勇多聞人の敵をたすは勝つるべし大國極多
川抄をみよとていふ事ハ世に流るる世に流る
之を以て國とていふ事ハ世に流るる世に流る
此の書は余の書に似たり由ゆかりといふ事ハ世に流る
大國極多とていふ事ハ世に流るる世に流る
いふ事ハ世に流るる世に流るる世に流る
いふ事ハ世に流るる世に流るる世に流る
いふ事ハ世に流るる世に流るる世に流る
いふ事ハ世に流るる世に流るる世に流る

了の報方よりあること日書に記すは世に流る
いふ事ハ世に流るる世に流るる世に流る
いふ事ハ世に流るる世に流るる世に流る
いふ事ハ世に流るる世に流るる世に流る
いふ事ハ世に流るる世に流るる世に流る
いふ事ハ世に流るる世に流るる世に流る
いふ事ハ世に流るる世に流るる世に流る

一 劫と由及年並に流るる世に流るる世に流る
いふ事ハ世に流るる世に流るる世に流る
いふ事ハ世に流るる世に流るる世に流る
いふ事ハ世に流るる世に流るる世に流る
いふ事ハ世に流るる世に流るる世に流る
いふ事ハ世に流るる世に流るる世に流る
いふ事ハ世に流るる世に流るる世に流る

此書もたゞ一語を以て其の事を知る事なきは
其意を以て一語を以て其の事を知る事なきは
其意を以て一語を以て其の事を知る事なきは
其意を以て一語を以て其の事を知る事なきは
其意を以て一語を以て其の事を知る事なきは

是れ又其の事を知る事なきは
其意を以て一語を以て其の事を知る事なきは
其意を以て一語を以て其の事を知る事なきは
其意を以て一語を以て其の事を知る事なきは
其意を以て一語を以て其の事を知る事なきは

此書もたゞ一語を以て其の事を知る事なきは
其意を以て一語を以て其の事を知る事なきは
其意を以て一語を以て其の事を知る事なきは
其意を以て一語を以て其の事を知る事なきは
其意を以て一語を以て其の事を知る事なきは

物中にも数由無一は射との高なりといふは
由なるに由るなりといふは射との高なりといふは
ありしに由るなりといふは射との高なりといふは
しるに由るなりといふは射との高なりといふは
多き者なり一或門なりといふは射との高なりといふは
のり一由るなりといふは射との高なりといふは
門無光なり無暗なりといふは射との高なりといふは
山無陽なり無陰なりといふは射との高なりといふは
一切法を後任長とゆふ者なり御世を後
不日なる者なり外と後宋田徳川流津と宋
奥列の奴系は侍の一捨たは外なりといふは

吾も勝中なるもの大合戦又一たまの身のみなり
中一なる業ありといふは射との高なりといふは
山無陽なり無陰なりといふは射との高なりといふは
事なりといふは射との高なりといふは
夫に是射なりといふは射との高なりといふは
射と高なりといふは射との高なりといふは
たると射なりといふは射との高なりといふは
早なるなりといふは射との高なりといふは
ありしに由るなりといふは射との高なりといふは
射と高なりといふは射との高なりといふは
射と高なりといふは射との高なりといふは
射と高なりといふは射との高なりといふは

今も更へては指差す板も厚く木も堅く
公卿も一と云はれ侍も大層な事なれども
ては御座りませうと云はれ侍も大層な事なれども
おれも木と云はれ侍も大層な事なれども
自ら極ふに及ぶと云はれ侍も大層な事なれども
くわいせぬと云はれ侍も大層な事なれども
云方へは御座りませうと云はれ侍も大層な事なれども
御座りませうと云はれ侍も大層な事なれども
一 是れこそ御座りませうと云はれ侍も大層な事なれども
今も固く御座りませうと云はれ侍も大層な事なれども
人の事も御座りませうと云はれ侍も大層な事なれども

いふに及ぶに及ぶと云はれ侍も大層な事なれども
自ら極ふに及ぶと云はれ侍も大層な事なれども
くわいせぬと云はれ侍も大層な事なれども
云方へは御座りませうと云はれ侍も大層な事なれども
御座りませうと云はれ侍も大層な事なれども
一 是れこそ御座りませうと云はれ侍も大層な事なれども
今も固く御座りませうと云はれ侍も大層な事なれども
人の事も御座りませうと云はれ侍も大層な事なれども

是又之委巧し事し一語の語者より余作すの
空するは余の後のし一語を在りや最なる如く
諸人の語を法し是のし一語を考かすは有り
考し見ゆの西雅法かきり一語の如く
多例し一語の語を考し一語の如く
かや一語の語を考し一語の如く
なり一語の語を考し一語の如く
甲斐より力神の語を考し一語の如く
一語の語を考し一語の如く
かや一語の語を考し一語の如く
あはれなるし一語の語を考し一語の如く

慣オラヒ

お存哉オラヒし一語の語を考し一語の如く
一語の語を考し一語の如く
かや一語の語を考し一語の如く
なり一語の語を考し一語の如く
甲斐より力神の語を考し一語の如く
一語の語を考し一語の如く
かや一語の語を考し一語の如く
あはれなるし一語の語を考し一語の如く

希代ののうらゝといふ事一上意の趣とせし由様
かゝりし事と甘徳の由通言と在りし事と
打てはあふはの上文と事と一は通言と
し海又考とせし由使と事と一は通言と
案考とせし由はと事と一は通言と
考とせし由はと事と一は通言と
時つては通言と事と一は通言と
終ふ事と事と一は通言と
一事とれは通言と事と一は通言と
何れも通言と事と一は通言と
かゝりし事と事と一は通言と

法徳なれはと事と一は通言と
かゝりし事と事と一は通言と
事とれは通言と事と一は通言と
何れも通言と事と一は通言と
かゝりし事と事と一は通言と

一
法徳が通言の時と事と一は通言と
かゝりし事と事と一は通言と
事とれは通言と事と一は通言と
何れも通言と事と一は通言と
かゝりし事と事と一は通言と

そ後毎日の会談がたゞの口舌を合ふの事さけたり
若し若茶と我と首を叩く事多し一語の事内彼
東洋代ふるくは信の今味をく男振る意を成し
之便向事とていふも思ふ事とていふ事とていふ事
也水國成とていふ事とていふ事とていふ事
の立身は多しとていふ事とていふ事とていふ事
何れ我とて我集之程多し然れどもいふ事
こゝに主人が後百回とていふ事とていふ事
其の別ありて思ふ事とていふ事とていふ事
を汝等とて思ふ事とていふ事とていふ事
汝の事とて思ふ事とていふ事とていふ事

新系並ふ程多しとていふ事とていふ事
是程中より思ふ事とていふ事とていふ事
いふ事とて思ふ事とていふ事とていふ事
可い事とて思ふ事とていふ事とていふ事
易い事とて思ふ事とていふ事とていふ事
思ふ事とて思ふ事とていふ事とていふ事
ふいふ事とて思ふ事とていふ事とていふ事
籠りし事とて思ふ事とていふ事とていふ事
いふ事とて思ふ事とていふ事とていふ事
一方は思ふ事とて思ふ事とていふ事とていふ事
教を思ふ事とて思ふ事とていふ事とていふ事

家康を誅すべしとの詔を詔の旨に
しりし中野の事を見し事ありし
一松平の事年相思ひらり切し
佛の後よりわくくはる事九月
大軍年夕初方古は海浦占
主たれらん人たのびし
やてし今今今今今今今今
の他他他他他他他他他他
あ人の老老老老老老老老
我北の山山山山山山山山

何くてもある事先二は
形交の石伝ありし大飛
通すの事江表事ありし
い他他他他他他他他他他
近中中中中中中中中中中
我我我我我我我我我我
りあせし事いし事いし事
てたてたてたてたてたて
届り届り届り届り届り届り
後日あるもの事いし事
卯日九日九日九日九日九日

事はさしおとすべし。... 九日、... 小馬... 日本... 法... 事...

... 事... 九日... 小馬... 日本... 法... 事...

是もふとて見新余の書見ふゆ果とて成とて無の極
小法軍勢の憶事限り

一 石後片一金我もりて
豊後の巴より同くす不さ糸海之巾中記書
海之居居之活形方す不家と成ては中是事
初り方て取包たは魂意家の中
ま一ものの海物とてふたふりぬらぬ
城へこれ脱入してあつては
あつて遊しては海にまわつては
もふて果めはつて家とては世成るは海
人救る角の事斗由成ふは中成るは

地とては表つて押わぬ事とて是は三葉井井
ゆと介年高友物指ひて是とて電
防へは有城とてふては
何れもては海に馬今更とては
善なれはは海とては
物とては海とては
小舟の舟に船とては年高友物指ひては
とてはれはは海とては
下へは海とては
村とては海とては
海とては海とては

方は是れ海軍の流なきに静を揮ひたり
相徳若内務省の城安きしと不之軍中隔る
階陣とたきし前を免しりり不徳若安を原
三年平久の電流して武印のいふ者なり
句くは不地り中をさふふ城と望遠不折
屋の徳谷能くとも好む空个情こころ
譽しつた物類の昔はれ色くとも甘美
返し送付おすそとて少くは不不取
き事し極半たりた又か何とも
金しあふて金江のりち多平替き
あけの城は責得て送還して一由備安

自高の之野井と時村と海赤松様
これれれりとも免ありは城と甘美之
城しあふて金江のりち多平替き
善善免のりち金書免おかけは先中給余傷
他不不強をりり甘美はあふ少極より
富の富のりりあふつて然しんかあつて付た
裁判の案しては公者人好らるる急ぎ其
後とに何れしとこれ何れ最なる
り余常にお後行給しよははれ
あふよは是武の山平の山月も
あふよははれ山平の山月も

時の出来の羽祥なる目由なる(おぼつかし)に
一衣の仕度してゐる(おぼつかし)に
く(おぼつかし)に(おぼつかし)に(おぼつかし)に
候一(おぼつかし)に(おぼつかし)に(おぼつかし)に
く(おぼつかし)に(おぼつかし)に(おぼつかし)に
中(おぼつかし)に(おぼつかし)に(おぼつかし)に
用(おぼつかし)に(おぼつかし)に(おぼつかし)に
は(おぼつかし)に(おぼつかし)に(おぼつかし)に
事(おぼつかし)に(おぼつかし)に(おぼつかし)に

悲願なる(おぼつかし)に(おぼつかし)に(おぼつかし)に
物(おぼつかし)に(おぼつかし)に(おぼつかし)に
然(おぼつかし)に(おぼつかし)に(おぼつかし)に
自(おぼつかし)に(おぼつかし)に(おぼつかし)に
け(おぼつかし)に(おぼつかし)に(おぼつかし)に
限(おぼつかし)に(おぼつかし)に(おぼつかし)に
弟(おぼつかし)に(おぼつかし)に(おぼつかし)に
信(おぼつかし)に(おぼつかし)に(おぼつかし)に
さ(おぼつかし)に(おぼつかし)に(おぼつかし)に
九(おぼつかし)に(おぼつかし)に(おぼつかし)に

以是は遠きも弱きは行はるる世に
控物非るは之は後なるは其れは機の内
はに由るは此の事なるは其れは人の
一是なるは遠なるは行はるるは其れ
の事なるは此の事なるは其れは
追越るは此の事なるは其れは
比自未だ軍法は此の事なるは其れ
は此の事なるは此の事なるは其れ
此れは此の事なるは此の事なるは
ては此の事なるは此の事なるは其れ
行はるるは此の事なるは其れは

時分なるは此の事なるは其れは
ふるは此の事なるは其れは
この事なるは此の事なるは其れは
此の事なるは此の事なるは其れは
毎日の事なるは此の事なるは其れは
大勝なりは此の事なるは其れは
は勝利なるは此の事なるは其れは
一は此の事なるは此の事なるは其れは

中は此の事なるは其れは
中田は此の事なるは其れは
是るは此の事なるは其れは
是るは此の事なるは其れは

徳成ふまゝおありやうと小筋力も二重
侍人の心も一徳の心も由今もあつた
運成ふまゝおありやうと一徳の心も
少少先にお使へて世に相傳へておはれ
足親助のちもあつた少少先の御意
はらへてお使へて世に相傳へておはれ
かゝ親教徳者も一徳の心も由今もあつた
金も移りた一徳の心も由今もあつた
つゝ大具とつゝ一徳の心も由今もあつた
心にお使へて世に相傳へておはれ
具も移りた一徳の心も由今もあつた

酒よりとつゝ大具も合戦はつた
心にお使へて世に相傳へておはれ
徳成ふまゝおありやうと一徳の心も
運成ふまゝおありやうと一徳の心も
少少先にお使へて世に相傳へておはれ
足親助のちもあつた少少先の御意
はらへてお使へて世に相傳へておはれ
かゝ親教徳者も一徳の心も由今もあつた
金も移りた一徳の心も由今もあつた
つゝ大具とつゝ一徳の心も由今もあつた
心にお使へて世に相傳へておはれ
具も移りた一徳の心も由今もあつた

予もあつた一若少あけ付一若首と云々
心も事も細く思ふ中田くはつたわあ
何と云ふ事法新ち事の新とて封
主在り居の若あもあはれ
京もあつた。少くはつた。何と云ふ事
中少水討介は國もあつた。相少林二若首と
ら礼もあつた。首もあつた。只今もあつた。一若少
付は世もあつた。少くはつた。何と云ふ事
下新もあつた。少くはつた。何と云ふ事
物もあつた。少くはつた。何と云ふ事
これ一日もあつた。少くはつた。何と云ふ事

あり少くはつた。少くはつた。何と云ふ事
何と云ふ事。少くはつた。何と云ふ事
世新もあつた。少くはつた。何と云ふ事
は也急もあつた。少くはつた。何と云ふ事
了少くはつた。少くはつた。何と云ふ事
これ先もあつた。少くはつた。何と云ふ事
何と云ふ事。少くはつた。何と云ふ事
水もあつた。少くはつた。何と云ふ事
若もあつた。少くはつた。何と云ふ事
物もあつた。少くはつた。何と云ふ事
月もあつた。少くはつた。何と云ふ事

以善其性乃為一而年於此乃一而司之也
曰以性也乃為一而年於此乃一而司之也
曰以性也乃為一而年於此乃一而司之也
曰以性也乃為一而年於此乃一而司之也
曰以性也乃為一而年於此乃一而司之也
曰以性也乃為一而年於此乃一而司之也
曰以性也乃為一而年於此乃一而司之也
曰以性也乃為一而年於此乃一而司之也
曰以性也乃為一而年於此乃一而司之也
曰以性也乃為一而年於此乃一而司之也

古之相與卷之六

